

資料4 用語解説

あ行

院内がん登録

医療施設における診療支援とがん診療の機能評価を第1の目的として実施する、その施設における全てのがん患者を対象とするがん登録のこと。

インフォームド・コンセント

医療行為を受ける前に、医師及び看護師から医療行為について、分かりやすく十分な説明を受け、それに対して患者は疑問があれば解消し、内容について十分納得した上で、その医療行為に同意すること。

嚥下障害（えんげしょうがい）

食べ物を口から胃や腸などの消化管へ送り込むための、一連の流れが障害されている状態のこと。食べ物が口からこぼれる、飲み込みにくい、食事中にむせたりせき込んだりする、食事が喉につかえるなどの症状が起こる。

か行

化学療法

化学物質（抗がん剤）を用いて、がん細胞を破壊する治療法。1種類で使われることもあるが、病状に合わせていくつかの種類の薬を組み合わせることもある。

がん医療の均てん化

全国どこでも質の高いがん医療を受けられること。

患者サロン

患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場のこと。

がん診療連携拠点病院

全国どこに住んでいても「質の高いがん医療」を受けられるように、都道府県の推薦をもとに厚生労働大臣が指定した病院。専門的ながん医療の提供、がん診療の連携協力体制の整備、及び患者への相談支援や情報提供などの役割を担っている。

緩和ケア

がん患者の体や心のつらさを和らげ、生活やその人らしさを大切に考える考え方。「患者らしさ」を大切にし、身体的・精神的・社会的・スピリチュアル（霊的）な苦痛について、つらさを和らげる医

療やケアを積極的に行い、患者と家族の社会生活を含めて支える考え方を早い時期から取り入れていくことで、がん患者と家族の療養生活の質をより良いものにしていくことができる。

誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）

誤嚥（食べ物や異物を気管内や消化管内に飲み込んでしまうこと）に引き続いて発症する肺炎。

コール・リコール

がん検診対象者への受診勧奨と未受診者に対する再受診勧奨のこと。

さ行

脂肪エネルギー比率

摂取エネルギー量に占める脂肪エネルギー比率のこと。

死亡率

ある集団に属する人のうち、一定期間中に死亡した人の割合。日本人全体の死亡率の場合、通常1年単位で算出され、「人口10万人のうち何人死亡したか」で表現される。

受動喫煙

室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされること。

生存率

ある一定の期間経過した集団について、その時点で生存している患者の割合のこと。

セカンドオピニオン

診断や治療方法について、担当医以外の医師の意見を聞くこと。

た行

地域がん登録

特定の地域に居住する住民に発生した全てのがん患者を対象とするがん登録のこと。対象地域における各種がん統計値（罹患数、罹患率、受療状況、生存率）の整備を第1の目的としている。

地域連携クリティカルパス

医療機関から在宅へ安心して戻れるよう切れ目のない医療を展開するため、急性期から回復期、維持期に至る医療連携クリティカルパスに保健福祉サービスを含め、関係者と利用者が共同して作成するケア計画のこと。

チーム医療

一人ひとりの患者に対し、関係する専門職が集まり、チームとしてケアに当たること。

な行

奈良県がん対策推進協議会

「奈良県附属機関に関する条例（昭和 28 年 3 月奈良県条例第 4 号）」に基づき設置している協議会。がん患者、学識経験者、医療・福祉または保健に携わる者等が委員となり、奈良県におけるがん対策の総合的かつ計画的な推進を図っている。

奈良県がん診療連携協議会

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針（平成 20 年 3 月 1 日付け厚生労働省健発第 0301001 号）」に基づき、都道府県がん診療連携拠点病院である奈良県立医科大学附属病院に設置されている協議会。都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携支援病院、奈良県医療政策部の代表等が委員となり、県内のがん診療の推進を図っている。

奈良県がんと向き合う日

「奈良県がん対策推進条例（平成 21 年 10 月奈良県条例第 13 号）」において、県民のがんに関する知識と関心を深めるとともに、がん対策の一層の推進を図るため、10月10日を「奈良県がんと向きあう日」と定めている。

内視鏡治療

内視鏡によって映し出された体内の病変部を、モニター画面上で観察しながら行う治療。挿入した内視鏡の先端から、スネアというループ状のワイヤを病巣部の根元に向け、高周波電流を流してがんを切除するなどの方法がある。

年齢調整死亡率

もし人口構成が基準人口と同じだったら実現されたであろう死亡率のこと。年齢構成が異なる集団の間で死亡率を比較する場合や、同じ集団で死亡率の年次推移を見る場合に用いられる。年齢調整死亡率は、集団全体の死亡率を、基準となる集団の年齢構成（基準人口）に合わせた形で求める。基準人口として、国内では通例昭和 60（1985）年モデル人口（昭和 60 年人口をベースに作られた仮想人口モデル）が用いられている。

は行

ばく露

問題となる因子に、特定の集団あるいは個人がさらされること。

ピア・サポート

「ピア」とは英語で「仲間」という意味。がんを経験した相談者が、患者と同じ立場で患者や家族の心の悩みに耳を傾け、精神的なサポートや相談（ピアカウンセリング）を行うもの。

標準治療

科学的根拠に基づいた観点で、現在利用できる最良の治療であることが示され、ある状態の一般的な患者に行われることが推奨される治療のこと。

病理診断

病理検査（病変の一部（組織）を薄く切り出したり、体の一部分から採った細胞を、顕微鏡で観察することにより、悪性腫瘍かどうか、異型度はどうかなど、組織や細胞の性質を詳しく調べる検査のこと）に基づいてなされる診断。専門の病理医によってなされる。

放射線療法

病変(がん)に治療用の放射線を当てて、がん細胞を死滅させる治療のこと。

訪問看護

看護師や保健師が、在宅で療養している患者の自宅を訪問して医療面から療養生活の支援を行うサービスのこと。主治医の指示に基づいた生活支援、リハビリテーション、床擦れ予防処置、カテーテル管理、介護や看護に関する相談などがある。医療保険または介護保険を利用してこのサービスを受けることができる。

ま行

マイクロトロン

放射線治療装置の一つ。医療用円型加速装置のこと。

や行

予後調査

がん登録に既に登録されている患者の生存率計算のために確認すべき登録患者の生死状況の調査。

ら行

罹患数

対象とする人口集団から、一定の期間に、新たにがんと診断された数。

罹患率

ある集団で新たに診断されたがんの数を、その集団のその期間の人口で割った値。

リニアック

放射線治療機器に用いられる加速装置の一つで、Linear accelerator(＝医療用直線加速装置)の略。

レセプト情報・特定健診等情報データベース（通称：ナショナルデータベース（NDB）

全国の平成 22 年 10 月診療分から平成 23 年 3 月診療分の医科電子レセプトと DPC 電子レセプトを対象に、厚生科学研究として解析を行われたもの。

レジメン

がん治療で、投与する薬剤の種類や量、期間、手順などを時系列で示した計画書。

※独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターの
「がん情報サービス がんに関する用語集」等から作成